

テーマ:音

南ゆたか保育園(品川区)

○ テーマを設定する

職員が使用する楽器を見て楽器を手作りして遊びだした。自分たちでも音を出せることに気が付いたことから、楽器や材料によっていろいろな音があり、音にまつわる現象について興味関心を深める

活動① ～弦楽器(ウクレレ)に触れる～

見て聞いただけだった楽器を手にとって、触れて五感で色々な事を感じる

○ 環境をデザインする

●準備した物(子どもの使いたい物を予測して)
ウクレレ、空き箱、輪ゴム、紐、弦、テグス、糸、針金、毛糸、麻紐、羽子板、ダンボール

○ 探究活動を実践する

●活動内容

ウクレレに触れて、音や感触、構造に気付く

●子どもたちの様子

- ・空き箱を使ってギター作りを進めている際、弦の部分をつく張った方がいい音が出ることに気付いていたが、実際に楽器に触れて音をだし、ネック部分の弦を指で押さえると音が変わることに気付く保育者や友達に知らせてやっていた
- ・音階の音の出し方について本を持ってきて調べ、指を置いて試してみる
- ・空き箱で作ったギターとの違い(穴の皆無)を見つけ出す
- ・楽器の空洞の奥に木の支えがある事や先端にあるテグに着目してみんなで回してみる
- ・自分で鳴らす音に耳を傾けじっくり聞こうとする



○活動スケジュール(5 歳児クラス)

活動内容	時間/回	人数/回
① 弦楽器(ウクレレ)に触れる-1	60 分程度	5、6 人
② ギター、ウクレレに触れる-2 ギター、ウクレレの音、演奏を聴いてみよう 音の響き、音の違い、作りの違いは？	30 分程度	19 人
③ どうしたら音が出るの？	30 分程度	2、3 人
④ エ夫と再挑戦のギターづくり、たいこづくり	60 分程度	4、5 人



○ 振り返りをふまえた気づき

●園の先生から

- ・ウクレレに触れて音を出す際に言葉に出さないが好奇心や豊かな心情が表情に表れていた。本物の楽器に触れて得る情報や感情は他にはない体験になる事を実感した。
- ・部屋のワンコーナーにさりげなく設定した事で、5、6人の子どもたちが関心を向けて集まる形になる。程よい人数で、子どもたちが様々な気づきや考えのやり取りができる空間になっていた
- ・音に関わる事をさらに探求していけるように個々の姿をとらえ、作る事だけでなく、様々な楽器を知る機会やこれまでに鳴らす経験してきた楽器を用いて奏でる楽しさ、友達と一緒に演奏する面白さ、それらに触れる機会を設けるなどして個々の関心が、広がり深まっていくようにしていく

活動② ～弦楽器(ギター、ウクレレ)に触れる-2

活動①で様々な発見があったなか、同じ弦楽器のギターに触れたり、演奏する音を聞いたりして、造りや音の違いを見つけそれをヒントに身近なもので楽器づくりを試みる

○ 環境をデザインする

●準備した物 ～子ども達の使いたいものを予測して～
ウクレレ、ギター、空き箱、ゴム、紐、弦、テグス、針金、毛糸、麻紐、羽子板

○ 探究活動を実践する

●活動内容

・保育者が奏でるウクレレ、ギターの音を聞いて音や構造などの違いを知り、触って、音や感触、構造に気づく

●子どもたちの様子

・保育者がギターとウクレレを交互に奏でると耳を澄まして音を聞く。保育者が穴の部分用纸でふさぐなどして音の響き方を比べると「穴があると音が響くんじゃない」「弦の太さがちがう」「ギターはどこで買えるの?」「ねじ(ペグ)をまわすとなんで音がかわるの?」「貼ってあるラベルは何?」など思い思いに感じたことを発言、質問でのやり取りをする

・友達と交代しながらギター、ウクレレに触れて音を出す、見る、鳴らすことを試みるうちに「ギターを作りたい」という思いが湧き、羽子板用の板や木の棒などを使って作ろうと動き出す。本物の弦を選び、ギターの造りを何度も見て真似ながら、作り進める。弦をテープなどでつけていく中で音があまり響かない事に気づき、穴が開いていると音が響くが羽子板には穴があけられない?どうすればいいか?空き箱で作った方がいいのか?と考えを巡らせていた



○ 振り返りをふまえた気づき

●園の先生から

・ギターに触れるようにした事でさらに関心が広がり、造りや仕組みに着目して深掘りしていく子どもの心の動きが読み取れた。前回は着目していなかったことにも興味が広がっていた

・本物のギターと同じように作りたいと思う気持ちが湧き、作っていくと音が響かない実態にぶつかったことで真中に穴があると音が響くという事をより感じる事ができていた。いい音を出したいという気持ちが膨み、羽子板に穴があけられない為空き箱で作った方が良さのかもしれないという考えを巡らせる姿が読み取れた

・子どもの心の動きが一つのものから枝分かれしてクモの巣のように広がっている。その姿を捉え、動向を先読みして必要になりそうなものを準備しておくの良い

・保育者は知識を持ち、タイミングを見て提示する部分と、子どもと同じレベルになって一緒に試行錯誤しながら考えて探究が続いていくように関わるとが大事である。大人が思う完成を求めず、子どもが望むところに寄り添っていく

活動③ ～どうしたら音がでるの？～

ギターに触れながら、ギターと同じような音を出すために
試行錯誤しながら楽器作りをする

○ 環境をデザインする

●準備した物 ～子ども達の使いたいものを予測して～
ギター、空き箱、ゴム、紐、弦、テグス、針金、毛糸、麻紐
羽子板、木の棒

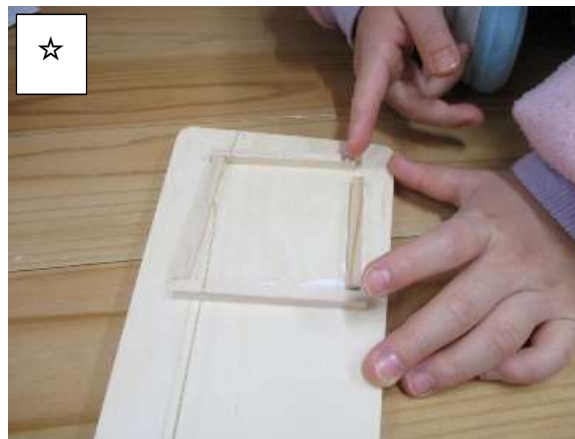
○ 探究活動を実践する

●活動内容

身近な材料を用いてギターの造りを真似て作ってみる(音が響くための穴を考える)

●子どもたちの様子

- ・ギターを鳴らし、何度も音を出してみる
- ・音がでるようにしたい、その為にはどうしたらいいか考える
- ・二個目の羽子板を使って、ギターの穴に近づけるためのイメージを膨らませていく。身近な素材の中から木の棒を選び保育者に相談しながら長い木の棒を切ってもらい、それをボンドでつけていく。その後、弦もつけていた(写真☆)



○ 振り返りをふまえた気づき

●園の先生から

- ・前回から子どもの楽器造りをする熱量が少し下がってきている姿も読み取れたが、それぞれに楽しむ姿がある
- ・どのように興味や関心に変化していくかわからず、もっとこうしたい、どうなるか？と続けていく姿に付き合っていくことが大事。ブームが細々と続くかもしれない、そこからは離れたり、また何かをきっかけに火がついたりして終わりはない。保育者がここで終わりかもしれないと区切りをつけず、行動や考え、工夫するなどの姿、心の動きを見逃さず、一心にやろうとする姿にとことん付き合っていき、色々な事を試して遊びを続けていけるようにする
- ・どのように進んでいっても、色々な思いや経験をする中で、(試行錯誤する経験と)楽しかったという思いが残っていくと良い

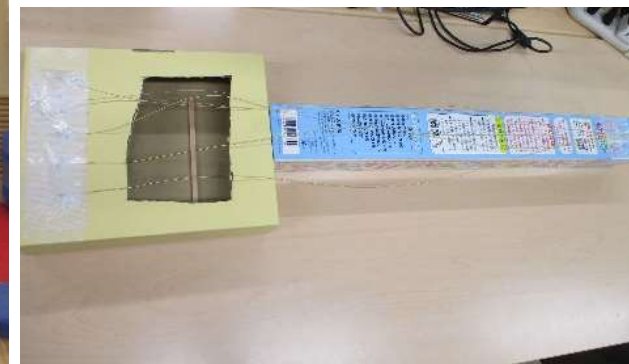
活動④ ～工夫と再挑戦のギターづくり 新たに太鼓づくり～

- ・羽子板や弦を使って音が出るように試行錯誤しながら自分のギターを作り続けることを楽しむ
- ・新しい楽器に触れ音に関心を深める

○ 環境をデザインする

●準備した物

- ・音に関心を深められるように新たな楽器(和太鼓(小)、マラカス、ウッドストック、ベルチャイム等)とギター、ウクレレを用意しておき、触れられる機会をもつ
- ・空き箱、紐、弦、テグス、針金、毛糸、麻紐、バチ、羽子板、木の棒、段ボール



○ 探究活動を実践する

●活動内容

- ・羽子板を使って作っていたギター作りの続きをする
- ・新しい楽器に触れる
- ・新たな楽器を作る

●子どもたちの様子

- ・設定しておいたギターやウクレレ、新しい楽器に触れることを楽しむ
- ・ギター作りを続けている子は、一度つけた弦を外して、自分で考え付いた事を今まで使っていなかった別の材料を用いて作ることを進める。新たに空き箱を用いてギターや太鼓を作る。それを用いて毎日、演奏を楽しんでいる
- ・アイドルごっこや劇ごっこで作った楽器で演奏を楽しむ

○ 振り返りをふまえた気づき

●園の先生から

- ・音が響かないのはなぜだろう？という思いを巡らせていたように、子どものなぜ？どうしたらいい？という思いを拾い上げ、広げていく援助をしていくのが保育者の役割、常に捉えて続けて保育をしていけると良い
- ・音楽(音)に触れる経験を場所を変えて(空の下、屋外など)行うことができると、心地良い体験につながるのではないか
- ・音に触れてきた経験が、楽器を作ること以外でも様々な形で、表現する遊びにも取り入れられている
- ・ダンス、劇ごっこなど表現遊びを楽しむ姿のなかに保育者に相談しながらも、「こうしたい」「どうするといいか」などの思いを少しずつ自分達でかなえていく姿がある
- ・大人もわくわくする気持ちになっている